

障害のある人と社会をつなぐネットワーク支援に関する研修会 発達障害児（者）支援に係る圏域別研修等事業（八重山圏域）

知的障がい・発達障がいのある人のための

トラブルシューター養成セミナー

◆日時：平成28年9月22日（木・祝）

基礎コース

10:00～16:00（受付9:30～）

◆会場：八重山合同庁舎 2階 会議室（定員70名）

◆対象：相談支援従事者、障害福祉サービス事業所職員、関係各課職員、
司法・矯正関係者、教育関係者、社会福祉協議会職員、その他支援者等

◆受講費：無料 ※事前申し込み必要 **申し込み×切：9月9日（金）**

◆申込方法：当センターホームページより専用フォームにて送信ください。

<http://www.okinawa-gajyumaru.jp/>



主催：沖縄県発達障がい者支援センターがじゅま～る、八重山圏域障害者自立支援連絡会議 療育・教育部会

共催：NPO法人 PandA-J

プログラム

※ 全プログラム修了者には「トラブルシューター基礎コース修了証」を発行いたします。

第1 講義

「トラブルシューターとはなにか？」

PandA-Jでやってきたこと、今やっていること、
これからやっていこうとしていること。
そして、最近の動きからなぜ今取り組むべきなのかを
考える。

10:10～

11:10

【講師】野澤 和弘氏（毎日新聞 論説委員、
PandA-J 副代表）

第2 講義

「トラブルになったときどうすればいいか —司法の立場から—

「逮捕されてから起訴されるまでにやれること」
「危機介入の方法」 ※刑事手続きなどの解説

11:15～

12:15

【講師】山田 恵太氏（北千住パブリック法律事務所、
東京弁護士会）

※ 当日は昼休憩（12:15～13:15）が短いため、
昼食の持参を推奨します。

第3 講義

「なぜトラブルが起きるのか？ 予防するにはどうしたらいいか？」

なぜ彼らは問題行動や事件を起こすのか。
トラブルを予防するために、地域で支える仕組みを考
える。

13:15～

14:15

【講師】堀江 まゆみ氏（白梅学園大学 子ども学部
教授、PandA-J代表）

第4 講義

「シンポジウム 一知的障がい・発達障がい児・ 者への地域ネットワーク支援について考える」

【コーディネーター】
野澤 和弘氏（第1講義 講師）

14:20～

16:00

【シンポジスト】
堀江 まゆみ氏（第3講義 講師）
山田 恵太氏（第2講義 講師）
津嘉山 航氏（沖縄県障害者等相談支援事業
八重山圏域アドバイザー）
米元 悠氏（八重山ひまわり基金法律事務所 所長）

【留意事項】

- 定員の都合上、お申込みいただいても受講いただけない場合がございますので、予めご了承下さい。その際には、当センターよりご連絡差し上げます。また、直前でのキャンセルはご遠慮ください。
- 駐車場に限りがあります。乗り合わせまたは公共交通機関利用等のご協力をお願いします。
- 天候不良時（台風等）の開催状況につきましては、当センターホームページでご確認下さい。



問い合わせ先：沖縄県発達障がい者支援センター がじゅま～る

TEL：098-982-2113（平日9～17時）

FAX：098-982-2114

トラブルシューター (TS) とは

知的障害・発達障害のある人が障害特性から誤解されやすく、それによって問題行動や事件（金銭的トラブル、性的犯罪など）を起こしてしまうことがあります。障害を正しく理解し、彼らの抱える生きづらさに寄り添った支援をすることで「社会生活」を送ることが可能になります。「自尊心」を大切に「心豊かに生きる」を目標に支援を考え、司法・医療・行政・福祉・教育・地域などが連携・協力する仕組みを構築していく必要があります。

トラブルシューターはその仕組みの中の一人です。本人とともに解決（快結）したり未然に防いだりするための新たな人材となります。知的障害・発達障害のある人が心豊かに社会生活できるように是非ご協力ください。



講師紹介

* 堀江 まゆみ 氏 (白梅学園大学 子ども学部 教授、PandA-J 代表)

通園施設等で心理相談にたずさわった後、1993年より白梅学園短期大学教員。1999年におきた施設暴力事件に関わり、裁判終了後、法人再建のために社会福祉法人理事長（東京・愛成会）となる。全日本手をつなぐ育成会理事・権利擁護委員会委員（～1999年5月まで）。

権利擁護研究としては、厚生労働科学研究「地域社会における障害のある人のためのセイフティネット構築およびセルフアドボカシー支援」（主任研究者）、厚生労働省「発達障害者支援のための地域啓発プログラムの開発研究」（主任研究者）。

現在は、権利擁護・成年後見活動のための「NPO法人 PandA-J」代表を基盤に、地域の親の会活動（育成会、自閉症協会）や弁護士、新聞記者たちと権利擁護活動を研究し実践している。

* 野澤 和弘 氏 (毎日新聞 論説委員、PandA-J 副代表)

1983年毎日新聞入社、津支局、中部報道部（名古屋）を経て1992年に東京社会部へ。いじめ、引きこもり、薬害エイズ、児童虐待、障害者虐待などに取り組む。社会部副部長、夕刊編集部長などを経て2009年から論説委員（社会保障担当）。

社会保障審議会障害者部会委員、内閣府障害者政策委員会委員、植草学園大学客員教授、東京大学非常勤講師など。主な著書に「あの夜、君が泣いたわけ」（中央法規）、「条例のある街」（ぶどう社）、「廃墟の中の希望」、「なぜ人は虐待するのか」（Sプランニング）、「わかりやすさの本質」（NHK出版）。

* 山田 恵太 氏 (北千住パブリック法律事務所、東京弁護士会所属)

大学で心理学や特別支援教育を学んだ後、障害がある人の法的サポートをしたいと考え弁護士に（2012年12月登録）。現在は、弁護士法人北千住パブリック法律事務所に勤務。

一般社団法人東京TSネット理事。弁護士会では、人権擁護委員会 障がいを理由とする差別禁止法制に関する特別部会（日本弁護士連合会）、刑事法制委員会（日本弁護士連合会）、障害者等刑事問題検討協議会（東京三弁護士会）などに所属。